

横浜教区の皆さまへ

礼拝指針（2022年6月版）

新型コロナウイルスの新規感染者は、今年の2月初めに全国で10万人を越えました。感染力が強いと言われているオミクロン株ですが、感染対策が徹底、また対策が熟知されつつある中、2月のピークの後、5月11日に45,900人の感染者が出て以降は、緩やかではありますが着実に減少傾向が続き、6月3日以降は全国で2万人を下回っています。

そのような状況を踏まえつつ、しかし今後も感染は続くものと予測されますので、以下の3つの基本につきましては、引き続き順守をお願いします。

- ① 換気の悪い密閉空間をつくらない
- ② 多くの人が密集しない
- ③ 近距離での会話や発声を避ける

なお、聖歌・チャント、二種陪餐、会食につきましては、以下のようにいたします。その他の点につきましては、今までのとおりです。

1. 礼拝における聖歌・チャントについて

- 1) チャントを用いない場合、**最大**、聖歌4曲かつ全16節まで（16節を越える場合は省略する）
- 2) チャントを用いる場合は、**最大**、聖歌3曲かつ全12節まで（12節を越える場合は省略する）
- 3) 礼拝時間は75分までを目安とし、発声は今までどおり控え目にする

2. 会衆の二種陪餐について（北海道教区大友宣兄一医師一の助言に基づいて）

分餐者によるインティンクシオンにて、以下のように実施することで会衆の二種陪餐の再開を**可**といたします。あくまでも再開が可能という意味であり、実際の再開については各教会および**会衆**各自の判断を尊重するものです。

- 1) 会衆は、陪餐前に掌を確実にアルコール消毒し、そこに分餐者より聖別されたパンを受けて、そのまま待つ
- 2) 次に、分餐者は会衆の掌に置かれているパンを取り、聖別されたぶどう酒（チャリス）に浸し、会衆はそれを直接、口で受けて拝領する（パンを唇でしっかり挟むとよい）。その際、万一、パンが落下した場合に受けられるように、会衆は手で受け皿を作る

3) 分餐者は、ある一定の人数の分餐の度毎に、また分餐者の手指が会衆の手や唇に触れた場合にはその都度、アルコール・ティッシュを用いて手を拭き消毒する。

※アルコール・ティッシュは使い捨てとし、一度使ったものは廃棄する

4) 3で使用したティッシュは使用した後、容器に集めておき、礼拝後にまとめて焼却する

3. 教会内での会食について

引き続き必要最小限に止め、会食する際は以下のことにご留意ください。

- 1) 換気の十分な部屋にて、前後左右の間隔を充分にとる
- 2) 対面ではなく同じ向きで座り、黙食にて行う
- 3) 会話をする際は、必ずマスクを着用する

2年半近く続くコロナ禍のもとでの制限が続きますが、ご理解のほどお願いいたします。

主にありて

2022年6月15日

横浜教区主教

主教イグナシオ入江 修